



雪が降って大はしやぎの実習生の皆さん。今年はいよいよも降雪回数も多く、既に4回の積雪がありました！

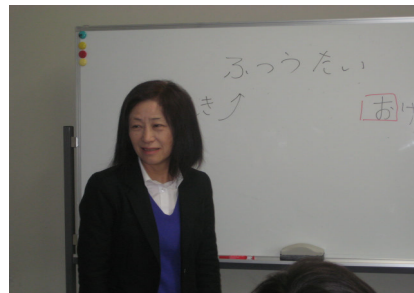
あじけん通信

2011 February
Vol.38

株式会社ティビィシー国際外語学院
企画・編集 澁谷 健司

2月に入り、あじけんも、いよいよ冬本番を迎えました。以前、紹介した「ゆたんぼ」が大活躍しています。現在、寒さに不慣れな東南アジアからの実習生の皆さんも、多数入寮していますが、インフルエンザ等で大きく体調を崩すこともなく、皆さん、元気に日本語学習に励んでいます。

あじけん日本語講師ファイル Vol.3: 松本 順子



私は、以前、渡米し現地の大学を卒業しました。その時、「言葉は文化である」という言葉と教えていただきました。日本にも深遠な文化があります。そこから醸し出される日本語を大いに味わえるような指導をしていきたいと感じています。

Q1 これまで教えた中で、一番印象に残っている実習生は？

日本語能力検定 3 級に合格したフィリピン人女性です。彼女は、非漢字圏の出身であるにもかかわらず、継続学習に励み、見事、合格を勝ち取りました。

Q2 当校の日本語指導において、最も大切にしていることは？

個々人がもっている言語能力を引き出していく「エデュケア」に基本を置き、実習生が必要なコミュニケーション能力を高めることです。

今月の実習生



インドネシアの「ともだち」は、明るくて親切で、いろいろ話をして、とてもたのしかったです。ここで別れるのは悲しいですが、実習を元気で頑張りたいです。

今月は、文化も言葉も異なる国、インドネシアから来た実習生達と異文化間の友情を育んだ、中国人からの実習生、蘭玉流さん（写真左）と李貴林さん（写真右）を紹介します。入寮以来、2人が昼休みや放課後などに、カタコトの日本語と身振り手振りを交えながら、同時期入寮のインドネシア人実習生達に積極的に話しかけている姿をよく目にしていました。

初めの頃は、ぎこちなかった彼らのコミュニケーションも、いつしかお互いに心が通じ合うものとなり、気が付けば彼らは、お互いを「ともだち」と呼び合う仲になっていました。

写真1



写真2



「ともだち」が退寮する朝、皆で記念撮影！（写真1）。その後、李さんはこらえていた涙が……。最後は涙のお別れとなりました（写真2）。

あじけん流日本語授業

今月は、前回に引き続き、会話テストのフィードバックの実践例をご紹介します。今回は「グループフィードバック」の様子をご紹介します。

このフィードバックスタイルは、比較的会話力が高いと判断されたクラスで実施されています。また、主に「会話テストI」（日本語講習開始時に実施されている会話テスト）のフィードバックとして行なわれています。

この「グループフィードバック」では、会話テストの録画映像をクラス全員で視聴し、その内容を、実習生同士が評価し合います。こうすることで、自らの会話力を客観的に評価し、「自分なりの学習目標」を持って、日本語学習により主体的に取り組むことが可能となります。また、日本語で積極的に意見を交換し合うことで、より実践的な発話練習の場にもなっています。



真剣に自分達の会話テストの様子に見入る
タイ人実習生のみなさん。



ワハハハハハ！！
時には笑いがまき起こるこ
とも（笑）！

JANDAPHANG JAKKRICH（チャイヤさん）写真左
自分の日本語を初めて聞いて、とても恥ずかしかったです。聞き取りをもっと頑張らないといけな
ことがわかりました。

SRIISSAREE JARASWAT（ラスさん）写真中央
自分の日本語は、話すのがとても遅いと感じました。も
っと単語をたくさん覚えて、会話のスピードを上げたい
です。

SRITHIN CHAIYA（ディウさん）写真右
自分の日本語は、自分が思っているほど、自然な日本語
じゃないことがわかりました。センターでの講習で、も
っと自然に日本語が話せるようにがんばりたいです。

